

Loopamp 反応チューブD

特徴

- Loopamp 試薬キット専用の反応チューブです。
- 一度フタを閉めると再び開けにくい構造のため、コンタミネーションの発生防止に役立ちます。
- チューブの側面に目盛線(約25 μ L、約35 μ L)があるため、反応液量の確認に便利です。



■ 包装単位・貯蔵方法・有効期間・製品コード

| 製品名 | 包装単位 | 貯蔵方法 | 有効期間 | 製品コード | 備考 |
|-----------------|------------|------|------|--------|-----------------------|
| Loopamp 反応チューブD | 8×12 sets | 室温 | 36ヵ月 | LMP906 | 8本連結チューブ×12セット(96本) |
| | 8×120 sets | | | LMP907 | 8本連結チューブ×120セット(960本) |

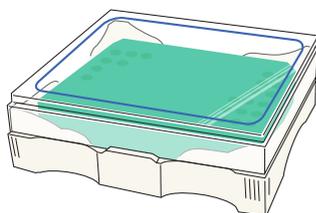
Loopamp 反応チューブ Dを使用する際の操作マニュアル

- Loopamp 反応チューブ Dは、一度チューブのフタを閉めると再び開けにくい構造となっているため、反応試薬等を分注した後に、いったん反応チューブのフタを閉める操作はおすすめできません。
- Loopamp 反応チューブ Dをご使用になる際は、以下の手順をご参考に操作を行ってください。

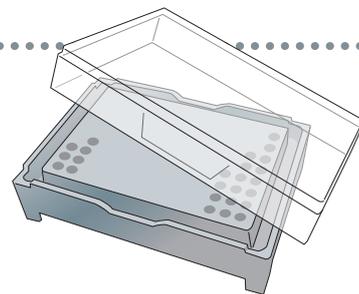
準備

チューブラックを用意します。

- Loopamp 反応チューブ Dをご使用になる際は、カバー付きチューブラックのご使用をおすすめします。
- 試薬等の保冷が必要な場合は、保冷用のチューブラックを使用してください(保冷機能のあるカバー付きチューブラックが便利です)。
- フタのないアルミ製チューブラック等を使用する場合は、○他のラックのカバーを流用する、○アルミホイルでラックを覆う、○フタ付きのアイスボックスに入れる、などをしてチューブラックをカバーできるようにします。



カバー付きチューブラック



フタのないチューブラックは別途カバーを用意します

操作方法

① サンプル溶液および反応試薬を調製します。

- サンプル溶液および反応試薬(マスターミックス)の調製はこれまでと同様の方法で行ってください。
- 調製方法については、試薬キットの添付文書または使用説明書等をご参照ください。

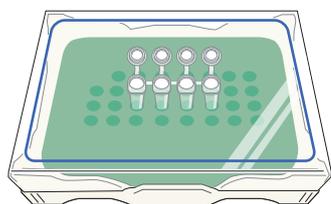
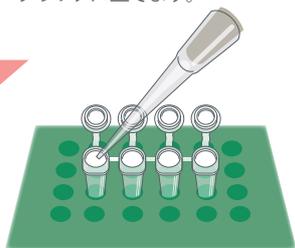
② Loopamp 反応チューブ Dに反応試薬を分注します。

- クリーンベンチ内での操作を推奨します。
- 必要に応じてチューブラックを保冷して操作を行ってください。



① 必要テスト数分の反応チューブをハサミで切り出した後、ピンセット等で取り出してチューブラックに立てます。

② 反応試薬(マスターミックス)を反応チューブに分注します。

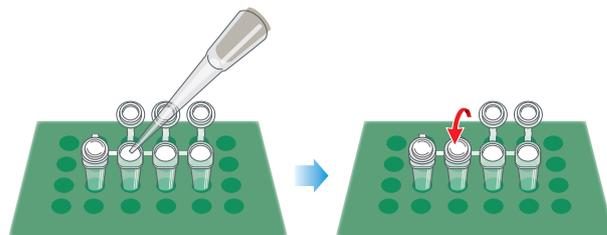
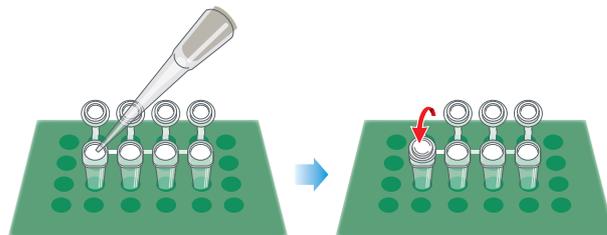


③ 分注後は**反応チューブのフタを閉めず**にチューブラックにカバーをします。

- 反応試薬の分注後すぐにサンプル溶液を添加できない場合、保冷機能付きチューブラックはカバーをしたまま冷蔵庫等で保冷します。
- アルミ製チューブラックを使用する場合は、カバーをしたまま氷上等で保冷します。

③ Loopamp 反応チューブ Dにサンプル溶液を添加します。

- ① チューブラックのカバーをはずし、反応チューブに陰性・陽性コントロールおよびサンプル溶液(DNA抽出液)を添加します。
- ② サンプル溶液等を添加した反応チューブは、その都度ただちにフタを閉めます。



③ サンプル溶液等の添加が終了した反応チューブは、これまでと同様にタッピング等で混和し、スピンドアウンを行います。

④ 増幅反応および判定を行います。

- 反応溶液の調製が終了した反応チューブはすぐに測定装置等にセットし、測定を開始します。
- 増幅反応および判定はこれまでと同様の方法で行ってください。
- 測定および判定方法については、試薬キットの添付文書または使用説明書等をご参照ください。

本製品の使用上又は取扱い上の注意については、使用説明書をご参照ください。